

挨拶

（アドバイザー・PDG 大澤 徳平）

日本における奨学金制度の中で、カウンセラーがつくのはロータリーの米山奨学金だけで、非常に親身になって奨学生をお預かりしているということです。本日の目的は情報交換の場です。米山奨学金の中身をじっくりと知っていただき、その価値を感じていただきたいと思います。

非常に懸念しているのは、本日、地区内 76 クラブのうち 11 クラブが欠席です。そして 7 クラブが代理でご出席いただいています。米山奨学金制度というのはロータリーにとって他にはない素晴らしい事業だということを確認していただいているならば、代理は結構ですが、欠席はないだろうと思っていました。私なりに考えたところ、ひょっとすると CLP が影響しているのではないかと感じました。CLP はクラブの活性化の道具として、クラブ組織作りの見本ですが、米山を忘れていただいたら困ります。本日は後にいろいろご質問も頂戴し、皆さんと一緒に考えて参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

米山奨学事業委員会 活動方針について（次期米山奨学事業委員長 米田真理子）



この事業の起こりは、1952年に東京ロータリーが米山梅吉氏の偉業を記念して「米山基金」から始まり、1967年に「財団法人ロータリー米山記念奨学会」として日本全国の地区共同事業に発展し50年を経過しました。現在世界の104カ国の学生達を送り出し、その人数は約13,000名になっております。3年前までは毎年1,000名の学生をお世話してきましたが、一昨年からは800名に減少してきました。これは会員数の低下によるものです。そして制度の見直し検討がここ数年前から議論され、一昨年度より新しい制度に移行しました。

新制度では高等専門学校も対象になりました。

【活動方針】

1. 地区の奨学事業委員会の組織は、ガバナーがトップに立った組織であることを明示しました。我々の目標も一応ガバナーの目標という形で表します。全クラブが目標を達成して地区目標を達成したいと考えております。
2. 委員会は「学友担当」「寄付増進担当」「奨学生選考」の3つの担当に分かれ、それぞれに計画立案を進めて頂きますが、実施に当っては全委員が協力して行いたいと思っております。
3. 各クラブの状況を最もよく把握されている担当のガバナー補佐の方々に十分ご理解して頂き、担当クラブの会員様に米山奨学事業の理解促進と寄付増進の働きをお願いします。
4. 推薦校より遠隔地にあるIM1組のクラブは学校がないので、奨学生と触れる機会が少ないのです。そこで、奨学生と交流を持って頂く為に、7～8月に奨学生を迎えてクラブで卓話をする機会を作ってあげて頂きたいと考えています。

5. 本地区独自に『2640 yoneyama』のメーリングリストがあります。ここにメールしますと、一斉に奨学生・カウンセラー・委員長にもメールが流れて瞬時に情報交換が出来る仕組みです。これを活用しながら米山奨学生とのコミュニケーションを密にして頂きたいと思っております。

米山の事業は前年7月の「推薦のお願い」から始まり、1月の「面接選考」、3月の「修了者歓送会」等々1年間通してプログラムが続きます。すでに新しい奨学生は4月から始まっております。ロータリーでは次年度ではありますが、すでに米山の委員長であるという思いでお務めくださいますようお願い致します。

今までの奨学生はほとんどが中国・韓国・台湾だったのですが、国籍もバラエティーに富んできました。そして、新しい制度により専門学校も対象とすることになりました。この秋頃から次年度の推薦のことで各大学とコンタクトを取り始めるのですが、対象校が今までは大学だけでしたが、高等専門学校にも広げようということになっております。もしまた皆様方から良い情報がありましたら積極的にお寄せ頂きたいと思えます。

米山奨学事業について

(次期米山部門カウンセラー補佐 松下 光春)

* 米山記念奨学会で作成したパワーポイント「米山豆辞典」で説明をしました。

米山奨学会設立の経緯

米山奨学会は、日本のロータリー運動創始者である米山梅吉氏を記念して東京ロータリークラブが全国に募金を呼びかけ、その基金をもとに立ち上げたものです。

その意思を継いで東京ロータリークラブが募金（奨学基金の運動）を始めました。

ロータリー米山奨学会の財源

ロータリー米山奨学会というのは、基金として外国人留学生を支援することで、第一号の米山奨学生、ソム・チャードが来日してからすでに52年の歴史を持っている。

その特徴は、「世話クラブ」というクラブの組織をあげて一人の奨学生を支援します。

また、日常生活・学業に関することなど、幅広い分野について一人のカウンセラーが担当して世話していく「カウンセラー制度」は、他の奨学制度にはない大きな特徴です。

寄付金がこの運動の全てを支えています。基金として一定のものを保持しているが、これを取り崩していくと瞬く間にこの運動が継続出来なくなってしまうので、出来るだけ寄付金の範囲内で運用していくように努めなければなりません。

「普通寄付金」は各クラブにお願いをしている基本的な基金です。

「特別寄付金」は会員の方が任意で拠出する寄付金です。奨学金の事業費は2つの寄付金を合わせても不足していて、特別積立金を取り崩して何とか事業を賄っているのが現状です。「普通寄付金」はこの事業の安定財源で基本的にあまり変わらずに推移しています。

「特別寄付金」の、税制上の優遇と表彰制度

「特別寄付金」は所得税・法人税・相続税などの税制上の優遇措置があります。

また、表彰制度も設けられています。表彰については累計金額が100,000円で米山の功勞者として感謝状が贈られ、それ以降100,000円毎に表彰されます。

以前は300,000円が基準でしたが100,000円になってからは、特別寄付の額を減らされ

たクラブが非常に多いということです。趣旨をご理解の上、出来る限りの協賛をお願いします。

使命の確認で地区目標額 20,000 円達成を！

米山の学友（元奨学生）の活躍は「学友の群像」という冊子の中に紹介されています。

今年度の制度改正で、使命の確認が行なわれています。「将来日本と世界とを結ぶ架け橋になって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成すること」米山奨学生を援助してどういう人材に育てていくのか、どういう人たちを援助していくのかということをしっかり確認しておかないと、我々はただお金を出しているというだけになってしまいます。

奨学金制度では、現地採用ロータリー米山奨学金、あるいは地区奨励ロータリー米山奨学金という使い方も今年度から加わりました。米山奨学会の財務状況が苦しい状況になっているため、学友の再留学プログラム（再留学をされる学生についても支援するという制度）は廃止を決めました。それから、途上国のリーダー育成ということで、なかなか日本に留学に来られない国の学生にも少し援助する方法が加わりました。又、クラブが支援する規定の年数を超えて更に上級の勉強をしたいという場合はクラブが半額位の援助をするという制度、そういう制度も地区の選考委員会に委ねるということになっています。

指定校大学推薦制度は、指定校の対象校を拡大しました。今までの大学レベルに、短大・高専・専修学校の指定も可能にしています。また、他地区の学校も指定を可能にすることになりました。例えば他地区の学校に通っている学生でも、もし当地区の世話クラブの例会に出席出来る場合は援助するという制度です。指定校は地区である程度の学校を選んでいますが、各クラブからも情報をお寄せ頂けると良いと思います。

採用数は寄付額に応じて配分

採用数は、今まで 1,000 名を援助しておりましたが、寄付額の減少により 2006 年度は 800 名になりました。個人の平均寄付額・寄付総額によって地区の採用数が決められます。当地区では、今年は 29 名という人数枠が与えられました。

指定校推薦制度の改変で、今回新たに大学 3～4 年に相当する高専専攻科の留学生も応募を可能にしました。また、地区奨励ロータリー米山奨学金（もう少し手前の留学生に対して）を従来の半額で 2 倍の人数を採用すること（2人で1人ということ）も導入しました。

素晴らしい人材へは、世話クラブの半額支援で期間延長も

現役奨学生の奨学期間は、最大が 2 年間となっており、学部・修士・博士という部門をまたがった援助はありません。例えば、学部生が修士課程に進みたいという時、クラブが半額を負担すれば最終学年あるいは博士課程まで援助を受けることが出来ます。世話クラブが「本当に素晴らしい」と認める人材であれば、そこまでしてクラブとしっかり結びついて頂くというのも国際奉仕という意味からも良いのではないのでしょうか。

各クラブでの理事会で確りと検討していただきたいと思います。

現地採用の優秀な人材発掘

海外で採用するプログラムが今年度から採用されます。

海外にある学友会、奨学金を受けて卒業した学生の会が推薦する人材、あるいは経済的な事情から来日することが出来ない、優秀な人材を現地で見つけ出し日本へ招いて育てるという制度も新しく導入されました。対象国は、現在はベトナムで選考が行われています。

米山奨学会の理解者として

最後に、「何の為に誰を支援しているのか」という事を委員長の皆様をご理解して頂き、クラブに帰って国際貢献できる人材を育てる大切なプログラムだということをPRして下さい。特に、新しい会員の皆様には米山奨学事業というのは日本のロータリーの先輩達が築き上げた尊い奉仕活動だということを伝えて頂きたいと思います。

そしてカウンセラーを兼任されている委員長の皆様には、奨学生を家族同様に受け入れてお世話をする事によって、今まで知らなかった国のことを知り、国へ帰った奨学生に大きな国際貢献の根を植え付けることになるとの信念を持って頂きたいと思います。又、卒業後の学友の情報も知らせて頂きたいと思います。

米山奨学事業はこれからも皆様と共に歩んでいくということが、日本のロータリアン全ての願いであってほしいものです。

過去10年来のクラブ別寄付額の推移

各クラブの過去10年間の寄付金の推移についてですが、お配りしています資料のように、普通寄付に関しては全クラブから寄付して頂いていますが、特別寄付金についてはいろいろ事情があると思いますが、ゼロというクラブもあります。米山奨学事業は普通寄付と特別寄付で運営が成り立っていますので、各クラブに帰られて特別寄付もゼロではなくて少しでも協力して頂きたいということをお伝えして下さい。

1999年くらいからクラブの会員数も減ってきております。会員数が減ってくれば寄付金も減ってくるのは当然のことなのですが、周年記念事業などの時に、米山に寄付をして増えているクラブもあります。

私は奨学生とお話する機会が皆さんよりも多いですが、奨学生の会合にほとんど来ない学生も実際あります。我々米山奨学事業委員会のメンバーは、委員長を筆頭に委員も学生さんとお話させて頂いて、ロータリアンは全てお金持ちじゃない。ロータリーのメンバーも減っている中で、奨学生に何とか日本で勉学して頂き、自国に帰った時に日本のロータリーの良いところを伝えて欲しいということもお話させて頂いております。

何度も言うようですが、普通寄付と特別寄付がなければこの運営が成り立っていきません。どうか皆様、各クラブに帰られましたら米山のご寄付を何とか協力して頂けるよう、くれぐれもお伝えして頂きたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

米山学友会について

(次期米山奨学事業委員・学友担当 河合 利晴)

魅力ある学友会の実現に向けてこれから話させていただきます事柄は、成功事例の発表ではなく、学友会活動が少しでも魅力があり活発な活動になることを願って、模索している様子をお伝えさせていただくものです。ここにお集まりの皆様から、色々ご意見をお伺いできて、地区の米山奨学事業の運営に役立つことを望んでいます。

学友会の目的は次のように書かれています。「学友（元米山奨学生）および現役奨学生がロータリアンとの交流を深め、ロータリーの理想とする国際交流・親善および平和の創造と維持に貢献することを目的とします。その特徴は、米山学友によって自主的に運営され、ロータリアンおよび米山奨学会が協力・支援することにあります。」2640地区では、一昨年末までの会則では、元奨学生は正会員・現奨学生は準会員と位置づけられていました。この会則を改正して、現奨学生も正会員として、奨学金を受給している時から、ロータリーには学友会組織があることを

認識してもらうようにしました。また、学友会会計年度が1月から12月であったのを、ロータリー年度に合わせて7月から翌年の6月に変更しました。

学友会会長は、卒業後も日本に滞在する活動意欲のある方を選出し、奨学生6名とロータリアン3名（1名の監事と2名の相談役）で役員会を構成しています。

学友会総会を開催しますので、この時の総会で、現奨学生も役員に数名加わることになると思います。

今、学友会会長王晶晶さんは、何か学友会でできるボランティア活動を色々考えているようです。災害救援募金であれ、語学力を生かしたものであれ、ロータリアンはこれ等を積極的に支援しているようにしています。

学友たちは、随分広範囲な地域で暮らしています。この方々へ催しの案内や、ニュースを伝えるには、従来の印刷物の郵送では経費と手間が掛かり大変で、連絡も躊躇して時機を失することになってしまいます。

それを解決するために、インターネットを利用して、「2640 yoneyama」と呼ぶメーリングリストを地区のIT委員会の協力を得て立ち上げました。現在、2005年度（23名）と2006年度の奨学生全員（27名）と過去の奨学生でアドレスが判り、メーリングリスト加入の承諾の返信の有った方（6名）、および地区米山奨学事業関係者の一部（37名）が登録されています。さらに今年度オリエンテーションで追加されます。これらの方々へは一斉に瞬時にメールを送れます。個人情報やプライバシーの侵害にならないよう配慮が必要です。

メール容量は受信する奨学生のプロバイダーやパソコンの性能を考慮して、500kb以内としています。なお、現・奨学生に確実に伝えなければならない事項は、メーリングリストだけに頼らずクラブ宛にも連絡します。

学友の集まる機会を少しでも多くするために、地区大会に元奨学生も招待して、その時の講演内容によっては一緒に聴くと共に、同窓会的楽しみの時も持ってもらおうとしています。今年度は9月中旬以降に米山記念館を訪問する計画をしています。

学友の皆さん カウンセラーでまだの方は是非ご参加ください。

質疑・応答

(次期米山奨学部門カウンセラー補佐 松下 光春)
(次期学友担当 河合 利晴)

一つお願いしたいことは、クラブの周年記念事業の中に米山に特別寄付をしてやろうというプログラムも是非入れて頂きたいと思います。その為に米山の方でも100,000円以上ご寄付頂いたときは感謝の記念の楯を用意しております。全クラブが特別寄付にもご参加頂けたということで次の年度が終われることを私は本当に切望しております。

それから奨学生はだいたい女性が多いですが、クラブへお迎えして皆が明るく活気のあるクラブになっていくところが多いようです。一般的には若い女性とロータリアンの男性の多いところで男女間セクハラの問題を注意しなければなりません。気安くその方に接したことが受け取り方、習慣の違いによってセクハラと受け取られることも聞きますので、ロータリアンの常識を持って紳士としての付き合いをしてかわいがって頂きたいと思っています。

<質問>

- ：カウンセラーをする際の具体的な仕事内容や注意点等を教えていただきたい。
- ：CLPにおける米山奨学委員会の所属はどうなりますか？
- ：確約書についてご説明をお願いします。

- : 学生が日本に来てから奨学金を受けるまでのタイムスケジュールを教えてください。
 - : 奨学金を渡すことによって、授業料の免除がなくなる場合もあるのではないのでしょうか？
 - : 次期世話クラブ以外のクラブは、どのような活動をするとういでしょうか？
- 他

閉会挨拶

(アドバイザー・PDG 大澤 徳平)

ロータリアンの皆様から絶大なるご協力を頂いております米山奨学会でございます。各クラブ委員長さん方あるいは米田次年度委員長さんを初めとしました委員さん方のご説明をご理解いただき、今後尚一層米山奨学会のためにご協力下さいますようお願い申し上げ、甚だ簡単ではございますが本日の勉強会とさせていただきます。どうもありがとうございました。